3.

炭坑方面にも 産業組合が 勃々生れて來た

産業組合が漸次勞働者團體と結付いて行く傾向が福岡縣にも勃々現れて來た從來産業組合は農村を中心として大正十年末現在に於て既に組合三百六十七聯合會九に達し中央會の恩賜表彰迄受くるの盛況になつてゐるが純然たる勞働者の團體に依る消費組合は絶無であつた而るに大正九年十二月遠賀郡海老津炭坑に於て自發的に坑夫を合員とし三百餘名を以て購買組合を組織した且同炭坑經營者たる若松炭坑株式會社重役にても同組合の發達を援助して今日にては利益配當をなす迄に發展して來た元來炭坑地方は好況期の際物價騰貴に委細關せざる態度を取つた爲め日用品は他の市場より遙に高値であつた影響を受けて一般に財界不振の今日にても尚數割の物價高を繼續してゐるので日用生活必需品の産地直接取引は多大の便利を消費者に與へて着々同事業は成功に向ひつゝあるので田川遠賀鞍手各地方の鑛業從業者間にも刺戟を受くる者現はれ現に田川郡一圓に大勢力ある三井系の各炭坑にても從業者間に消費組合を組織する計畫が樹てゝ伊田を中心として購買組合の組織に歩を進めてゐる樣である若し三井系各炭坑の組合成立せば約一萬二千餘名の組合員が各自出資して大規模の組合をなすであらうし旁右の出現は勞働者團體の産業組合を利用する一時代を劃するものである

伊田後藤寺兩町 無慙の痛手を負ふ 坑夫組合の廉賣市

だしぬけに開店した

炭坑町の運動が炭坑の盛衰に左右される事は云ふ迄も無いが炭坑町のお顧客樣は何よりも炭坑坑夫さまである。好況時代一時田川市建設の夢をさへ抱いた福岡縣田川郡伊田後藤寺の兩町が寄生してゐた三井田川炭坑一萬二千の稼働者礦夫が其の組織する共愛組合内に購買消費組合を作り正に兩町を脅威せんとしつゝある事は本紙が逸早く報道した所である伊田町では去る十五日漸く商工親會を開き其席上之が對策を協議し榮町本町兩町間の三井空地を借用して一大廉賣場を設置せん等と議論沸騰して三井に交渉する事に話は付いたが共愛組合側ではさつさとお構ひなしに十八日突如として後藤寺本坑、大數二坑、伊田三坑の各地で同時に其の經營に成る市場を開店した賣價は驚く可し伊田後藤寺の市價のビール四十五錢が三十八錢、手巾十七錢が十二三錢、酒一升一圓二十錢が一圓五錢其他日用品孰れも非常の廉價である驚いたのは兩町民で大數町民は十七日緊急協議を開き伊田商工會は十八日夜急遽廻狀を發して十九日總會を開いた何れその結果は三井田川側への交渉となるだらうが共愛組合は坑夫自身の組合であつて三井田川炭坑としても干渉する譯には行くまい。兎に角不況に加へて正面よりのこの强敵は正に伊田後藤寺兩町にとつて由々しき大事であらねばならぬ一部商人の間には兎に角吾々は今日迄儲けさして貰つて來た止むを得ないと自己本位に濟しこむものもあるが大部分は兩町盛衰存亡の秋だとて太い見得を切るのが多い坑夫側では生活を安全にする自衛策として止むを得ないと云ひ放つてゐるが此問題の進展と解決は正に筑豐炭坑地方の一大問題である

遙かに大なる由なれは該工業若干と共に勞働者も多數滯留する觀測せられてゐるので沈衰せる同市及び北九州の勞働者も爲めに活氣を呈し引いては不況の商業界にも利潤する所が多かるべしと觀察されてゐる（未完）

潮の退くが如く 解雇され行く職工

福岡縣工場課の調査 不景氣な染物工場

福岡縣工場課での五月中に於ける縣下各工場の職工移動調べに依れは解雇した工場が二百五十九工場で解雇職工男千三百四十一名女工千百二十四名で合計二千四百六十五名届入れた工場が二百三十八工場で届入職工男千四百七十四名女八百五十九名合計二千三百三十三名即ち届入數に比して解雇された職工が男女を通じて百三十二名多く前月末現在で工場數五百八十三名職工數が男二萬千二百九十六名女一萬四千五百七十一名合計三萬五千八百六十七名である工場中で前月中に最も職工の減少を見たのは染物工場と飲食物工場で染物工場は届入工場四十六に對して解雇したのが六十届入職工數四百六十一名に對して解雇八百二名の多數飲食物工場では届入れたのが廿八工場百六十二名に對して解雇したのが四十八工場で二百七十三名に上つて居るのと反對に職工數の增加を見たのは化學工場と雜工場及特別工場で化學工場は解雇の五十五工場七百一名に對し届入が七十二工場の八百五十二名雜工場は解雇二十五工場二百十三名に對して届入廿七工場二百六十四名特別工場は解雇四工場三十四名届入四工場五十六名機械及び器械工場では届入工場六十三解雇工場六十七であるが職工は却て多くなつて解雇の四百四十二名に對し五百三十八名を届入て居る各種工場に於ける前月末現在職工數は左の通りである

	工場數	男工	女工	計
染織	一四八	二,一五三	九,七〇三	一一,八五四
機械器具	一六四	六,九三六	五九六	七,五三二
化學	一一五	七,七二六	一,二九四	九,〇二〇
飲食物	一〇七	一,七五一	六五〇	二,四〇一
雜工場	三九	一,五九七	二,二三六	三,八三三
特別工場	一〇	一,一四四	一〇四	一,二四八

客月長崎職工移動

長崎縣工場課係の調査に依る五月中の職工移動は解雇六十七工場男四百四十三女四百九十一計九百卅四人、届入六十一工場男二百三女四百二十三計六百廿六人、月末工場數百五十六、職工數男一萬八千五十九女五千六百四十九計二萬三千八百七十人である、工場中異動の多かつたのは織物業の解雇六工場二百卅三人届入五工場十二人、製絲業の解雇六工場百廿六人届入れ八工場百四十三人、船舶車輛業の解雇五工場百五十六人届入一四工場十三人、金屬精煉業の解雇一工場五十九人届入一工場一人等で各工場を通じて届入れより解雇の多いのは世況の然らしむる所であり製絲業が夫に反して居るのは季節的の現象で別段の意義はない、又同月の事業不振の故で休止したのは長崎市の酒類製造業積工場一工場で解雇女九人を出したが轉業し、復活したのは佐世保市外の中道煉瓦一工場、新設したのは長崎市のゴム工業所、門司製氷增設二工場、市外十五町の山田コークス島原の玉繩製絲、諫早の長崎製絲諫早工場、佐世保市外の森鐵工場、福石工作所の七工場職工新規届入れ男八十三女百四十八計二百卅一人である